

表法をとり、その簡略化を試みた。

結 果

調査Ⅰの結果は表-2、3に示した。

表2. 調査Ⅰのヒメジャコ残存個数

調査月 \ 調査地点	A	B	C	D	E
1980.5~6	25	18	36	40	20
1980.10	15	4	2	12	5
1981.6	15	3	2	8	5

表3. 調査Ⅰのヒメジャコ残存個体の成長量

調査月 \ 調査地点	A	B	C	D	E
1980.5~6		0.31~0.68 [※] 0.48±0.09 ^{※※}			
1981.6	1.45~2.35 1.88±0.22	1.45~1.60 1.53±0.06	1.40~1.50 1.45	1.45~2.35 1.80±0.34	1.85~2.35 2.00±0.18

(cm) , ※:測定範囲, ※※:平均値及び標準偏差

1年後の経過は、st.Aではそのまま15個体が残存し、st.Bでは4個体から3個体となり、st.Cでは2個体がそのまま残っていた。st.Dでは12個体から4個体が減少し8個体が残り、st.Eは5個体と変化がなかった。

放流時の大きさは、0.31~0.68cmでその平均は0.48±0.09cmであった。1年後の測定値は穿孔生息長径値で1.45~2.35cmであり、st.A~Eの平均は1.73cmとなり、約1.3cm程度の成長量であった。

試験Ⅱの結果は表-4に示した。

表4. 調査Ⅱのヒメジャコ残存個数

調査月 \ 調査地点	1	2	3	4	5	6	7	8
1981.6~7	3,000	3,000	1,000	1,000	2,000	500	300	300
1981.9	240	42	5	39	14	6	56	11
残存率 (%)	8.0	1.4	0.5	3.9	0.7	1.2	18.7	3.7